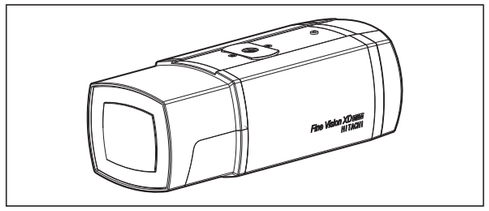
取扱説明書

日立監視用ネットワークカメラ

DI-CB110
DI-CB100

HITACHI
Inspire the Next

このたびは、日立監視用ネットワークカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。なお、お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。



製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際には、製造番号と保証書の番号が一致しているかご確認ください。

日立監視用機器についてのご相談や修理はお買い上げの販売店へ

なお、転居されたり、お買い上げの販売店がわからない製品の修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は
TEL 0120－3121－68
FAX 0120－3121－87
（受付時間）365日／9:00～19:00
携帯電話、PHS からもご利用できます

商品情報やお取り扱いについてのご相談は
TEL 0120－3121－19
FAX 0120－3121－34
（受付時間）9:00～17:30（月～土）
日曜・祝日と年末年始・夏期休暇など弊社の休日は休ませていただきます
携帯電話、PHS からもご利用できます

- お客さまが弊社にお電話でご連絡いただいた場合には、正確にご回答するために、通話内容を記録（録音など）させていただくことがあります。
- ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社に個人情報を提供し対応させていただくことがあります。
- 出張修理のご依頼をいただいたお客様へ、アフターサービスに関するアンケートハガキを送付させていただくことがあります。
- その他、会社名、各製品名は各社の登録商標、商標または商品名です。

特　長

プログレッシブ走査の CCD 撮像素子を搭載
DI-CB110 は約 125 万画素、DI-CB100 は約 38 万画素のプログレッシブ走査 CCD 撮像素子を搭載していますので、高精細な映像でモニタリングが可能です。

高画質な画像伝送
デュアルコーデックの採用により、動画は高画質な H.264 形式で、静止画は JPEG 形式での伝送が可能です。

高音質な音声伝送
高性能音声圧縮回路の採用により、内蔵マイクおよび外部接続マイクの音声は、高音質な MP2 形式または G.726 形式での伝送が可能です。

外部センサーが接続可能な ALARM(アラーム) 端子を搭載
ALARM(アラーム) 端子に接続した外部センサーからの異常信号を検出し、その異常情報を他の機器に伝送することが可能です。

各種インテリジェント機能を装備
画像認識方式を用いたモーションディテクタ（動き検知）、滞留検知、いたずら検知、故障検知など、多彩なインテリジェント機能でセキュリティを確保します。

パソコンでの監視が可能
日立ハイブリットレコーダ DS-JH シリーズと接続できるほか、専用のソフトウェアを用いることで、パソコン上でも画像の確認、カメラの設定が可能です。

SD/SDHC メモリーカードスロットを搭載
アラーム発生時や動き検出時の画像やカメラ動作時のエラー情報などを SD/SDHC メモリーカードに保存できます。

PoE に対応
LAN ケーブルを介して電源を供給する技術「PoE（Power over Ethernet）」に対応していますので、HUB などの PoE 電源供給装置を介して LAN ケーブルを接続することで、電源アダプターや電源工事が不要となります。

PRINTED WITH SOY INK
この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

株式会社 日立製作所
〒101-8010　東京都千代田区外神田4丁目14番1号
秋葉原 UDX ビル

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

QR78061 © Hitachi, Ltd. 2009

Printed in Japan 0K-N(I)

仕　様

形名		DI-CB110	DI-CB100
レンズ		バリフォーカルレンズ（DC オートアイリス）	
	F 値	F1.2	F0.95
	焦点距離	f ＝3～9 mm（約 3 倍）	f ＝2～5.5 mm(約2.8 倍)
	水平画角	32°～ 93°	39°～ 106°
	垂直画角	24°～ 68°	29°～ 78°
撮像素子		1/3 型 CCD 型固体撮像素子	1/4 型 CCD 型固体撮像素子
	有効画素数	約 125 万画素 [1,296 (H) × 966 (V) 画素]	約 38 万画素 [768 (H) × 494 (V) 画素]
	走査方式	プログレッシブ	
最低被写体照度		0.6 ルクス以下（ワイド端）0.04 ルクス以下（ワイド端、AGC High、電子感度アップ 8 倍）	0.5 ルクス以下（ワイド端）0.008 ルクス以下（ワイド端、AGC High、電子感度アップ 32 倍）
カメラ機能	WDR	輝度補正方式	高速・低速シャッター画像の合成方式
	電子感度アップ	有（最大 16 倍）	有（最大 64 倍）
	デジタルノイズリダクション	有	
	ホワイトバランス	自動（補正有り）	
	AGC	自動（標準、標準±6 dB 選択可）	
	モーションディテクタ	有（画像認識方式）	
	フリッカー補正	有（自動利得補正方式）	
	プライバシーマスク	有（最大 8 箇所）	
	いたずら検知	有	
	白黒自動切り換え	有（赤外線カットフィルタによる切り換え）	有（簡易白黒切り換え）
画像	画像圧縮方式	H.264 または JPEG	
	出力画像サイズ（解像度）	S（1280 × 960 ピクセル）A（704 × 480 ピクセル）B（704 × 240 ピクセル）	A（704 × 480 ピクセル）B（704 × 240 ピクセル）
	フレームレート	S：最大 15 fps A/B：最大 30 fps	最大 30 fps
音声	音声圧縮方式	MP 2 または G.726	
	音声入力	内蔵マイク / 外部マイク / ライン入力（切り換え）	
通信	通信プロトコル	TCP/IP プロトコル イーサネット（100BASE-TX、10BASE-T）	
	ネットワーク層	IPv4/ICMP/ARP	
	トランスポート層	TCP/UDP/RTP	
	アプリケーション層	HTTP/FTP/POP3/SMTP/SNMP/RTSP/RTCP/SNTP/DNS	
	マルチキャスト対応	有（H.264）	
	時計機能	有（内蔵）	
	障害通知 / 記録機能	SNMP 機能対応 / ログ機能	
	セキュリティ	BASIC 認証	
状態表示		動作確認ＬＥＤ（赤）、通信確認ＬＥＤ（黄、緑）	
外部入出力		アラーム入出力 (端子台各 1 系統) 音声入出力（φ 3.5mm ミニジャック各 1 系統） 画角調整用映像出力（φ 3.5mm ミニジャック）	
記録機能		有（SD または SDHC メモリーカードへ記録）	
許容周囲温度		－10℃～ 50℃	
電源		PoE または外部電源（DC12 V）	
消費電力		約 4.0 W	約 3.6 W
外形寸法		W 73 ×H 61 ×D 176.2 mm （突起部を除く）	
質量（本体）		約 400 g	

予告なく仕様を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
- DI-CB110 の WDR（輝度補正方式）には[redacted]アピカル社の技術を使用しています。

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

● 絵表示について
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※ 1）を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（※ 2）を負う可能性が想定される内容および物的損害（※ 3）のみの発生が想定される内容を示しています。

※ 1 重傷.....失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、または治療に入院や長期の通院を要するものを指します。
※ 2 傷害.....治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど（高温・低温）・感電などを指します。
※ 3 物的損害 ....家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を指します。

● 絵表示の例

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

異常なときは使わない
- 万一煙が出ている、へんなにおいがするなど異常状態のまま使用すると、火災の原因となります。すぐ電源供給装置（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）の電源プラグをコンセントから抜くなどし、電源を切ってください。煙が出なくなるのを確認して、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

水にぬらさない
- 万一水などが内部に入った場合は使用をやめ、電源供給装置（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）の電源プラグをコンセントから抜くなどして電源を切ったあと、お買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災の原因となります。
- 水がかかりそうな場所に設置するときは、カメラハウジングなどでカメラを保護してください。カメラ単体で設置して内部に水が入った場合、火災の原因となります。

異物を入れない
- 内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。火災の原因となります。
- 万一異物が内部に入った場合は、電源供給装置（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）の電源プラグをコンセントから抜くなどして電源を切ったあと、お買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災の原因となります。

落下のおそれのある場所に設置しない
- カメラの重量に耐えられないような、もろい材質が使われている場所に設置しないでください。落下してけがの原因となります。

指定外の電源供給機器（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）を使わない
- 指定外の電源・電圧で使用すると、火災の原因となります。必ず指定の電源供給機器をお使いください。

引火性ガスが発生する場所に設置しない
- 引火性ガスが発生する場所に設置すると、発火の原因となります。

分解・改造しない
- 分解・改造しないでください。火災の原因となります。

風呂場では使用しない
- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

落としたり、キャビネット／カバー類を破損させない
- カメラを落としたときや、キャビネット／カバー類を破損したときは、正常に動作しているように見えても、内部に異常がある場合がありますので、電源供給装置（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）の電源プラグをコンセントから抜くなどして電源を切ったあと、お買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災の原因となります。

⚠注意

湿気やほこりの多い場所に設置しない
- 火災の原因となることがあります。

油煙や湯気が当たる場所に設置しない
- 調理台や加湿器のそばに設置しないでください。火災の原因となることがあります。

キャビネットやカバー類を開けない
- キャビネットやカバー類を開けないでください。内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。

移動させるときは注意して
- 移動させるときは、接続コードを抜いてから、移動してください。つながったまま移動させると、接続コードが傷つき、火災の原因となることがあります。

放熱を妨げない
- 内部に熱がこもると、火災の原因となることがあります。指定外のところにテープやシールなどを貼り付けないでください。
- できるだけ風通しの良いところに設置してください。
- 布類をかけないでください。

接続コードを傷つけない
- 接続コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりするとコードが破損し、火災の原因となることがあります。
- 接続コードを敷物などでおおわないでください。コードに気づかず、重いものをのせて接続コードを傷つけることがあるのでご注意ください。火災の原因となることがあります。

接続コードが傷んだら交換する
- 接続コードの芯線が露出したり、断線したときは販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。

接続コードを熱器具に近付けない
- コードの被覆が溶けて、火災の原因となることがあります。

ぬれた手でプラグを抜き差ししない
- 感電の原因となることがあります。

お手入れするときは電源を外す
- 安全のため、電源供給装置（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）の電源プラグをコンセントから抜いてお手入れしてください。

長期間ご使用にならないときは電源を外す
- 安全のため、必ず電源供給装置（カメラ駆動ユニット、電源アダプター、HUB 等）の電源プラグをコンセントから抜いてください。

保守点検について
- 保守点検を販売店にご相談ください。機器内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、保守点検の費用については、販売店にご相談ください。

ご使用上のお願い

● 設置上のご注意　次のような場所には設置しないでください。

強い電波や磁気のあるところ
電波塔の近くやモーターを使った電気製品のそばなど、強い電波や磁気の発生するところで使用すると、画像がゆがんだりすることがあります。

極端に高温や低温のところ
許容動作温度（❷ページ）範囲外のところでは使用しないでください。
画質の低下や故障の原因になります。

ほこりや湿気の多いところ
カメラ内部にほこりが入ると故障の原因になります。
また湿気が多いと、レンズにカビが発生する原因になります。

油煙や湯気が当たるところ
カメラ内部に油や水が入ると故障の原因になります。

屋外に設置する場合
屋外でのご使用はカメラハウジング（別売品）をご使用ください。雨水などがカメラ内部に入り故障の原因になります。

● 使用上のご注意

衝撃を与えない
ぶつけたり、落としたりすると故障の原因になります。

太陽や強烈な光に向けない
撮像素子が焼き付き、撮影できなくなる場合があります。

接続機器の取り扱いについて
本機につなげてお使いになる機器の取扱説明書と、その「使用上の注意」もよくお読みください。

お手入れについて
フロントカバーのレンズ面にほこりや汚れなどがつくと映像がきれいに映りません。ほこりや汚れなどがついた場合は、やわらかい布などを使って軽くふきとってください。

お願い
- キャビネットやカバー類をふくときは強くこすらないでください。キズが生じることがあります。
- キャビネットやカバー類をベンジンやシンナーなどでふかないでください。塗装がはげたり変質することがあります。
- 汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふきとり、乾いた布で仕上げてください。
- キャビネットやカバー類に殺虫剤などの揮発性のものをかけないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってご使用ください。

外国では使わない
このカメラは日本国内用です。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
<This video camera cannot be used in foreign countries as designed for Japan only.>

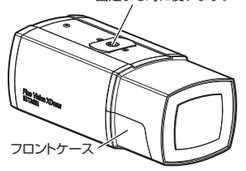
監視用カメラの故障もしくは不具合により発生した付随的損害（営業損失などの補償）の責については、ご容赦ください。

各部のなまえ

DI-CB110 で説明します。DI-CB100 とはレンズの形状が異なります。

前面

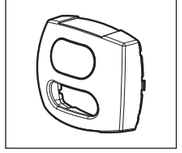
取付金具用ねじ穴
カメラ取付金具(別売品)で固定する時に使います。



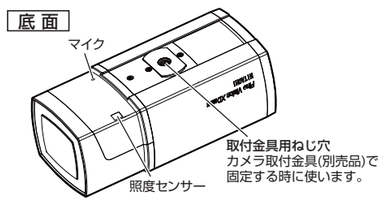
フロントケース

■付属品をご確認ください

リアカバー

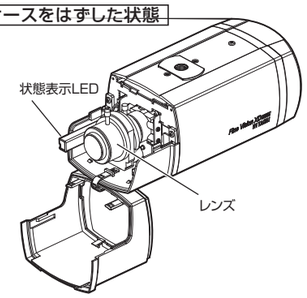


底面



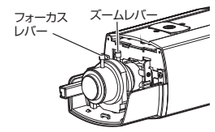
照度センサー：カメラの周囲の明るさを検出します。工場出荷時は OFF になっています。

フロントケースをはずした状態

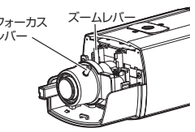


状態表示 LED (赤)：電源を投入されると点滅し、ネットワークの通信が確立すると消灯します。

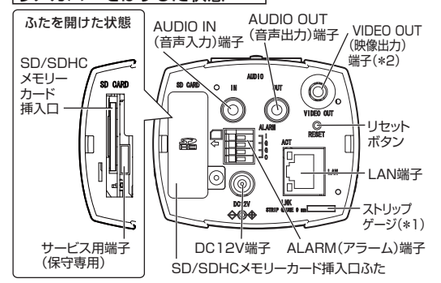
DI-CB110



DI-CB100



リアカバーをはずした状態



＊1：ストリップゲージの長さは 9mm です。ALARM（アラーム）端子に接続するケーブルの被服をはがす際、はがす長さの目安としてご使用ください。
＊2：VIDEO OUT（映像出力）端子は、設置時に画角とピントを合わせるためのモニタを接続する端子です。設置後は端子からケーブル類を外してください。

リセットボタンのはたらき

用　途	操　作
「ピント調節アシストバー」の表示／非表示を切り換えます。「ピント調節アシストバー」は、VIDEO OUT（映像出力端子）にモニターを接続するとその画面上に表示されます。	1 回押す
各種設定を工場出荷時の状態に戻します。ただし、IP アドレスは「192.168.000.100」になります。	約 10 秒間押し続ける
IP アドレスを工場出荷時の「000.000.000.000」に戻します。DS-JH シリーズから自動的に IP アドレスを割り当る際、IP アドレスを「000.000.000.000」に設定する必要があります。詳細は DS-JH シリーズの取扱説明書をご覧ください。	5 秒以内に 3 回押す

設置から調節までの手順

下記の手順に従って、カメラを設置・接続・設定・調節してください。

ご注意
- カメラの設置、接続は、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。ご自分での設置、接続は事故や故障の原因になります。
- 設置時にゆるめるねじは、SD/SDHC メモリーカード挿入口ふたのねじだけです。
  その他のねじは絶対にゆるめたり、はずしたりしないでください。

カメラを設置します ⑥
必要に応じて、SD/SDHC メモリーカードを装着してください。
また、必要に応じて、次の接続を行ってください。
- 外部センサー、設備機器を ALARM（アラーム）端子に接続する
- 電源アダプターを DC12V 端子に接続する
- マイクを AUDIO IN（音声入力端子）に、アンプ内蔵のスピーカーを AUDIO OUT（音声出力端子）に接続する

↓

PoE 電源供給装置（HUB など）に接続します ⑧

↓

PoE 電源供給装置（HUB など）とハイブリッドレコーダー（DS-JH シリーズ）を接続します ⑧

PoE 電源供給装置（HUB など）を使用しないとき ↓

↓

画角とピントを合わせます ⑧

↓

必要に応じて、カメラの各種調節や設定をハイブリッドレコーダーまたはパソコンから行います。
※ ハイブリッドレコーダー（DS-JH シリーズ）から調節・設定するときは、ハイブリッドレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
※ パソコンから調節・設定するときは、専用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

設置のしかた

1. カメラを設置する場所を決めます。

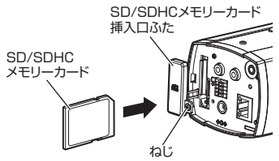
2. LAN ケーブルおよび必要なケーブルをカメラ設置場所まで配線します。

3. 必要に応じて SD/SDHC メモリーカードを装着します。

プリ／ポストのレコーディング設定を行うと、アラーム入力端子のアラーム信号発生時や動き検出時に画像データ（静止画：JPEG）、またはエラー情報や操作履歴などを SD/SDHC メモリーカードに保存することができます。プリ／ポストのレコーディング設定を行うには専用のソフトウェアが必要です。詳しくは下記 URL をご覧頂くか、お買い上げの販売店にお問合せください。
http://www.hitachi.co.jp/bouhan/

① ねじをゆるめて、SD/SDHC メモリーカード挿入口ふたを開けます。
② SD/SDHC メモリーカードを装着します。
SD/SDHC メモリーカードをはすすときは一度メモリーカードを押し込み、ロックを解除してから、引き抜いてください。
③ SD/SDHC メモリーカード挿入口ふたを閉じ、ねじで固定します。

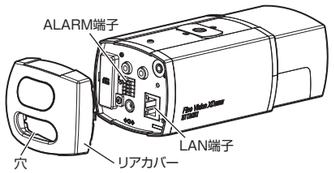
ご注意
- DS-JH シリーズに接続している状態で、SD/SDHC メモリーカードに静止画 (JPEG) を保存する際は、DS-JH シリーズの記録フォーマットを JPEG に設定してください。DS-JH シリーズの記録フォーマットが H.264 の場合、画像は保存されません。
- SD/SDHC メモリーカード装着後、SD/SDHC メモリーカード挿入口ふたのねじ止めを確実に行ってください。ふたが正しく閉じられていないと、データの書き込みと読み出しが行えません。



お知らせ
- SD/SDHC メモリーカードを使用する際は「接続確認機器について（⑩ページ）」をご覧ください。

4. 必要に応じて、ALARM（アラーム）端子にセンサーや外部設備機器などを接続してください。

ALARM（アラーム）端子に接続したセンサーなどの出力信号をトリガーとして、画像が SD/SDHC メモリーカードへ保存されます。
センサーなどのケーブルは、必ずリアカバーの穴を通してからカメラに接続してください。



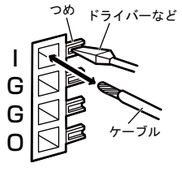
【ALARM 端子の機能】

端子名	機　能
I	アラーム入力 ・ 外部センサーを接続して使用する際は、アラーム入力記録設定 (*1) を行ってください。 ・ 外部センサーからの出力信号が、アラーム信号としてカメラに入力され、画像が SD/SDHC メモリーカードに保存されます。 ・ 400ms 以上のアラーム期間（A 接点：GND とショート、B 接点：オープン）でアラーム入力を受け付けます。
G	アラーム入力 GND ・ アラーム入力用のグランド端子です。
G	アラーム出力 GND ・ アラーム出力用のグランド端子です。
O	アラーム出力 ・ アラーム入力や照明異常などを要因として、接続している機器設備などへアラームを出力します。 ・ オープンコレクター出力です。 （最大出力電流：40mA、最大印加電圧：35V）

*1：アラーム入力記録設定は、パソコン（専用ソフトウェア）から行ってください。設定方法の詳細は、専用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

【ケーブルのつなぎ方】
端子のつめをドライバーなどで押しながら、被服を 9mm ほどはがしたケーブルを差し込みます。ケーブルの被服は、LAN 端子の下側に「STRIP GAUGE(ストリップゲージ)」の長さ（9 mm）に合わせてはがします。
ケーブルを十分に差し込んだら、つめをもとに戻します。

【ケーブルのはずし方】
端子のつめをドライバーなどで押しながら、ケーブルを引き抜きます。



5. LAN 端子に LAN ケーブルを接続します。

LAN ケーブルは、8 極 8 心の RJ-45 モジュラプラグ付き、カテゴリ 5e 準拠のストレートケーブルを、100m 以内でご使用ください。
LAN ケーブルは、必ずリアカバーの穴を通してから、カメラに接続してください。

6. 必要に応じて電源アダプターを接続します。

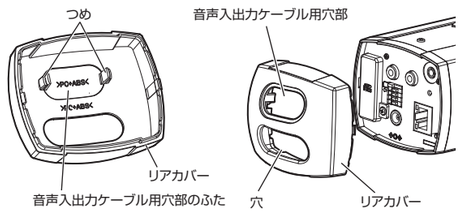
PoE 電源供給装置（HUB など）を使用するときは、電源アダプターを接続しないでください。
電源アダプターは、PoE 電源供給装置を使用せず、カメラを直接ハイブリッドレコーダー（JH シリーズ）の LAN 端子やパソコンの LAN 端子に接続するときに接続します。
電源アダプターのケーブルは、必ずリアカバーの穴を通してからカメラに接続してください。

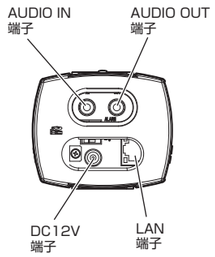
お知らせ
- 電源アダプターを使用する際は「接続確認機器について（⑩ページ）」をご覧ください。

7. 必要に応じて、AUDIO IN(音声入力) 端子に外部マイクを、AUDIO OUT(音声出力) 端子にアンプ内蔵のスピーカーなどを接続します。

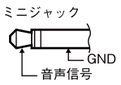
外部マイクやアンプ内蔵のスピーカーを接続するときは、リアカバー内側のつめ 2 か所をはすして音声入出力ケーブル用穴部のふたを取りはずし、外部マイクやアンプ内蔵のスピーカーのケーブルを通してください。

お知らせ
- 外部マイク接続時、内蔵のマイクは機能しません。



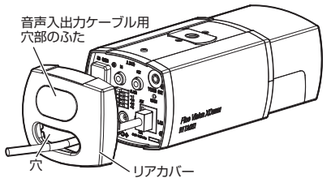


【AUDIO IN/OUT （音声入力／出力） 端子適合プラグ】

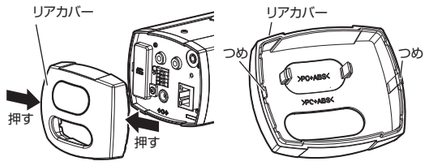


8. リアカバーを取り付けます。

LAN ケーブルを通した穴が下側になるようにリアカバーを取り付けてください。
音声入出力ケーブル用穴部のふたは、AUDIO IN（音声入力）端子と AUDIO OUT(音声出力)端子のいずれか、または両方を使用するときのみ開けてください。



お知らせ
- リアカバーをはずす際は、リアカバーの左右を押して、内側のつめをはずします。



PoE 電源供給装置（HUB など）への接続

■ PoE 電源供給装置（HUB など）へ接続するとき

PoE 電源供給機器（HUB など）は、100Base-TX 対応の機器をご使用ください。

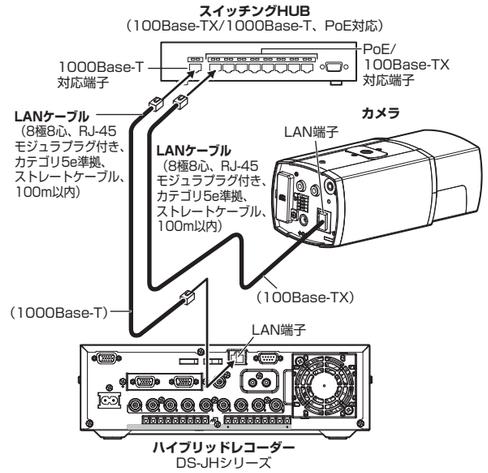
お知らせ
- PoE 電源供給機器（HUB など）を使用する際は「接続確認機器について（⑩ページ）」をご覧ください。

1. カメラからの LAN ケーブルを PoE 電源供給装置に接続します。

2. ハイブリッドレコーダーへ接続するための LAN ケーブルを PoE 電源供給装置に接続します。

LAN ケーブルは、8 極 8 心の RJ-45 モジュラプラグ付き、カテゴリ 5e 準拠のストレートケーブルを、100m 以内でご使用ください。

接続例：PoE 対応スイッチング HUB 使用時



■ ハイブリッドレコーダーに接続するとき

カメラが 1 台の場合、PoE 電源供給装置（HUB など）を使用せず、直接ハイブリッドレコーダー（DS-JH シリーズ）の LAN 端子にカメラからの LAN ケーブルを接続することができます。
その際は、カメラの DC12V 端子に電源アダプターを接続してください。
LAN ケーブルは、8 極 8 心の RJ-45 モジュラプラグ付き、カテゴリ 5e 準拠のストレートケーブルを、100m 以内でご使用ください。

■ パソコンに接続するとき

カメラが 1 台の場合、PoE 電源供給装置（HUB など）を使用せず、パソコンの LAN 端子にカメラからの LAN ケーブルを接続することができます。
その際は、カメラの DC12V 端子に電源アダプターを接続してください。
LAN ケーブルは、8 極 8 心の RJ-45 モジュラプラグ付き、カテゴリ 5e 準拠のストレートケーブルを、100m 以内でご使用ください。
パソコン上で画像の確認、カメラの設定などを行うには、専用のソフトウェアが必要です。詳しくはお買い上げの販売店にお問合せください。

PoE 電源供給装置（HUB など）とハイブリッドレコーダー (DS-JH シリーズ) の接続

1. PoE 電源供給装置（HUB など）の電源コードをコンセントに差し込みます。

2. PoE 電源供給装置(HUB など)からの LAN ケーブルをハイブリッドレコーダー (DS-JH シリーズ) の LAN 端子に接続します。

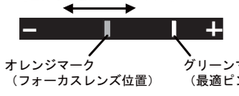
画角とピントを合わせる

モニターをご用意ください。

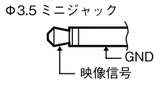
1. VIDEO OUT(映像出力) 端子にモニターを接続します。

VIDEO OUT 端子にモニターを接続すると、レンズの絞り（アイリス）が開放状態になり、画面上に「ピント調節アシストバー」が表示されます。

【ピント調節アシストバー】



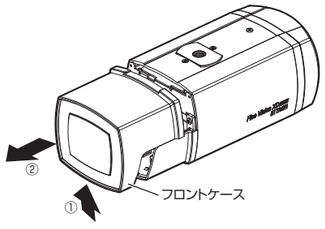
【VIDEO OUT(映像出力) 端子適合プラグ】



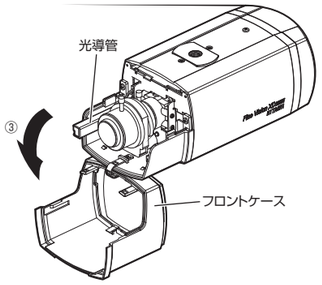
2. 被写体がモニター上の中央に映るよう、カメラの設置角度を調節します。

3. フロントケースを開きます。

① フロントケースの先端を、「カチッ」と音がするまで、下から押すように持ち上げます。
②フロントケースを前方に引っ張ります。



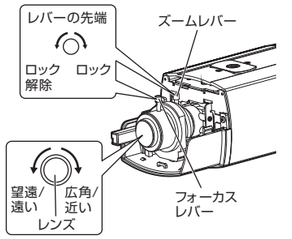
③ 矢印の方向に開きます。
このとき、フロントケースが光導管に接触しないよう注意してください。



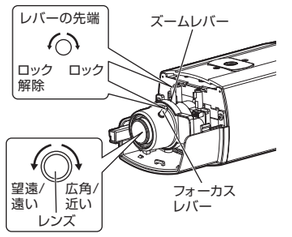
4. 被写体が適切な大きさで、鮮明に映るよう、ズームとピントをズームレバーとフォーカスレバーで調節します。

ズームレバーとフォーカスレバーはロックされています。調節するときはレバーの先端を回しロックを解除してください。
ピントの調節は次の手順で行ってください。
① 一度フォーカスレバーをピント調節範囲の端から端まで動かします。「ピント調節アシストバー」上のグリーンマークが自動的に最適ピント位置を示し、保持されます。
② フォーカスレバーを調節し、オレンジマークがグリーンマークに近づくようにします。
③ ピントが合っているかどうかの最終確認は、必ずモニターの画面で行ってください。ピントがずれているときは、フォーカスレバーを調節してください。

DI-CB110



DI-CB100



ご注意
- ピント調節時、被写体に動きがあると、「ピント調節アシストバー」のグリーンマークが安定しないことがあります。
- ズームとピントを調節した後は、ズームとピントがずれないように注意して、ズームレバーとフォーカスレバーをロックします。ロックしないと振動などでズームやピントがずれてしまいます。

5. VIDEO OUT(映像出力) 端子からモニターをはずし、フロントケースとリアカバーを取り付けます。

設置後の確認

設置後、次のことを確認してください。

1. カメラにガタツキがありませんか？
2. 画角とピントが合っていますか？

設置後の各種調節・設定について

カメラの各種調節・設定は、すべて接続されているハイブリッドレコーダーまたはパソコン（専用ソフトウェア）から行います。
調節・設定する際は、ハイブリッドレコーダーの取扱説明書または専用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

接続確認機器について

- 接続確認を行った機器に関する最新情報は http://www.hitachi.co.jp/bouhan/ をご覧ください。
- 接続確認機器リストに記載している機器であっても、全ての条件下で確認を行っているわけではありません。お使いになる個々の機器の動作を保証するものではありません。
- 接続確認機器リストに記載している機器をご使用の結果生じた製品、機器の故障、映像の消失および付随的損害（営業損失などの補償）等の責についてはご容赦ください。

故障かな・・と思ったら

次のことをお調べください。それでも具合の悪いときは、お買い上げの販売店にご相談ください。
ご自分での修理は事故や故障の原因になります。

症　状	確認内容	処置方法	参照ページ
まったく映らない	PoE 電源供給装置の電源コードがコンセントに差し込まれていますか？	PoE 電源供給装置の電源コードをコンセントに差し込んでください。	⑧
	ハイブリッドレコーダーの電源コードがコンセントに差し込まれていますか？	ハイブリッドレコーダーの電源コードをコンセントに差し込んでください。	—
	機器間の LAN ケーブルが正しく接続されていますか？	機器間の LAN ケーブルを正しく接続してください。	⑥〜⑧
	電源アダプター (PoE 電源供給装置以外) を用いている場合、電源アダプターが正しく接続されていますか？	電源アダプターを正しく接続してください。	⑦
ピントが合わない	フォーカスレバーがロックされていますか？	ピント合わせを行ってから、フォーカスレバーをロックしてください。	⑨
色合いがおかしい	改装などで照明の位置や種類が変っていませんか？	ハイブリッドレコーダーの取扱説明書をご覧になり、ホワイトバランスを調節してください。	—
きれいに映らない	レンズにほこりが付いていませんか？	レンズにキズを付けないよう、ブロアブラシなどで、ほこりを取り除いてください。	—

保証書（別添）について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保存してください。保証期間は、お買い上げの日から 1 年間です。なお、保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この監視用カメラの補修用性能部品を、製造打切後 8 年間保有しています。性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

修理を依頼されるときは（出張修理）

本機が正常に動作しないときは、「故障かな・・と思ったら」をお調べください。それでも正常に動作しないときは、ご使用を中止し、必ず電源を切ってから、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。なお、監視用カメラの故障もしくは不具合により発生した、付随的損害（営業損失などの補償）の責については、ご容赦ください。

保証期間中は
修理に際しましては保証書をご提示ください。

ご連絡していただきたい内容	
品　　名	監視用ネットワークカメラ
形　　名	DI-CB110/DI-CB100
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

修理料金の仕組み	
技術料	診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。
出張代	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

保守点検サービスのおすすめ

保守契約を結んでいただきますと、保守契約期間中は保守契約条項により、安心で有利なサービスが受けられます。
- 障害が発生した場合は保守員を派遣して、装置の修復を行うとともに、必要により点検を実施します。
- 詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。